

社会科（歴史的分野）学習指導案

展開学級 1 学年

1 単元名 ^{ひとつなぎ} ONE PIECEの古代文化史 ～異文化×日本＝“日本らしさ”の形成～

2 単元について

(1) 単元観

情報化の進展やグローバル化を背景に、今や世界はかつてないほど近くなり、異なる文化が交わり合う時代を迎えている。今日では、外国人の移民問題に対する関心も高まり、異文化理解や多文化共生の重要性はますます高まっている。私たちの生活は、もはや単一の文化だけで成り立っているわけではなく、他文化との共存が必要不可欠な時代となった。このような実情の中で、過去の文化交流を学ぶことは有益である。歴史的な視点を持つことで、異なる文化がどのように影響し合い、共生してきたのかを理解できるからだ。日本の歴史においても、さまざまな文化が交流し、融合してきた。今回題材として扱う古代（飛鳥文化、天平文化、国風文化）では、唐風の文化や仏教が伝来し、日本の風土に合わせて受け入れられ、形を変えて日本独自の文化を生み出していった。この過程を学ぶことで、現代社会における異文化理解や多文化共生の意識を育むことができるだろう。以上を踏まえ、本単元は、学習指導要領の中項目（1）古代までの日本 ア（エ）「古代の文化と東アジアとの関わり」について、イ（ア）「古代の社会の変化を多面的に考察する」ことに重点をおいて構成した。古代文化史を通じて、異なる文化がどのように日本に取り入れられ、変化していったのかを考察し、現代社会に通じる異文化共生の意識の醸成を目指したい。

飛鳥文化は、中国や朝鮮半島から影響を受けた日本で最初の仏教文化として花開いた。この時期、仏教の伝来や、中国の先進的な政治制度、書道や絵画などの芸術が日本に入ってきた。特に仏教は、日本社会に深い影響を与え、寺院や仏像が少しずつ全国に広がりを見せた。法隆寺の釈迦三尊像と中国の竜門石窟の石仏とが酷似していることから、当時の中国技術や思想が日本へと伝わり、大きな影響を与えたことが分かる。

奈良時代に入ると天平文化が栄え、遣唐使によって中国の文化が本格的に日本に流入した。特に、唐の政治制度や仏教文化が日本に深く影響を与え、平城京の都造りや仏教施設の建設、律令制度の整備などが進められた。この時期、日本は唐の先進的な文化を取り入れ、自国の制度や文化を大きく改革した。唐風の詩歌や絵画、さらには文学や書道の技術も日本に定着し、これが後の日本文化の発展に大きな影響を与えた。この時代は異文化を積極的に受け入れ、それを自国の特色に合わせて発展させた時期であり、日本にとって非常に重要な文化的転換期であった。

平安時代に栄えたのが国風文化である。国風文化の最大の特徴は、唐風の影響を受けつつも、日本の風土や社会に根ざした形でそれらを変化させ、新たな価値観や文化を生み出したことにある。例えば、平等院鳳凰堂は、中国（唐）の宮殿建築の影響を受けて成立したものである。鳳凰堂に見られる左右対称の配置や楼閣風の外観、華やかな装飾性は、唐の建築様式から取り入れられた。一方で、平等院鳳凰堂は、自然環境や貴族文化に即した日本独自の発展を遂げている。鳳凰堂は池を正面に配し、建物全体を水面に映す「寝殿造り」の住宅建築を取り入れることで、極楽浄土の景観を象徴的に表現している。加えて、回廊や細殿を付属させることで、日本的な優美さと調和が表現されている。すな

わち、平等院鳳凰堂は唐風建築の影響を受けつつも、浄土信仰や自然観と結びつけて、日本独自の美意識を体現する建築へと発展したのである。このように、国風文化は過去の外国文化との接触や融合の結果として生まれたものであり、異文化を受け入れ調和を図る力がここに示されている。

それでは、国風文化について、生徒たちはいかなる学習経験を積んできているのか。小学校段階では、学習指導要領の解説によると、「貴族の生活や文学作品からこの頃の文化の特色を考え、日本風の文化が成立していたこと」を理解することが求められている。この段階では、大陸との交流については言及されていない。中学校段階では、小学校での学習を踏まえたうえで、さらに大陸との交流とその影響の視点を加えることが求められている。本単元の設定においては、そのような国風文化の基底にある「唐風文化の影響」に目を向けた。なぜなら、国風文化の研究は近年再評価の時期を迎え、新しい研究視点が重視されるようになったからである。先述したような「国風文化とは、基盤となる唐文化を日本風に変容させることで、自国の独自性を確立していった」という視点は、比較的新しいものである。これまで、国風文化は単に「唐風からの離脱」と捉えられることが多かったが、最近の研究では、国風文化がむしろ唐風の影響を受けつつ、次第に独自性を形成していった過程に焦点を当てている。例えば、榎本淳一（1997）は、国風文化を「中国文化の骨組みを利用して、その表面のみを日本的な装いに改めたもの」「日本における中国文化の一種の大衆化」として理解し、国風文化の形成には中国との貿易や文化的交流が重要な役割を果たしたと論じている。また、河添房江（2005）は、国風文化を「唐の文物なしでは成り立たない、むしろ国際色豊かな文化」とし、当時の中国からの影響を強調している。このように、国風文化を理解するには、単に日本的な美意識や風土に合った文化として見るのではなく、唐風文化との深い関連性を再確認することが求められる。

以上を踏まえ、単元を以下のように構成する。本単元は、前単元で飛鳥時代「聖徳太子の政治改革」から平安時代「摂関政治」までの学習を終えた後に、それぞれの時代の文化史のみを抽出した特設単元として学習を進めていく。前単元の終末に、本単元の単元を貫く問い「ONE PIECEの古代文化史～古代文化の特色は？～」を提示する。第1時では、飛鳥文化・天平文化・国風文化の概要とそれぞれの文化の特色の理解を図る。第2時（本時）では、前時で獲得した知識・技能を踏まえ、「国風文化は日本独自の文化といえるのか？」という課題意識を喚起させる。実際に、様々な文化財で「唐→天平文化→国風文化」のような変遷を読み取り、国風文化が日本独自の文化だと言えるかどうかを5段階で評価させる。その際ギガタブを効果的に活用させることで生徒の思考の可視化し、生徒同士の議論の促進を図る。第3時・第4時では、「外国人に各時代の文化品をプレゼンしよう！」という活動をもとに、各時代の「マイベスト文化品」をスライドで作成する。その後、単元を貫く問いを振り返り、古代文化史の特色をまとめさせることで、古代の時代的特色の把握を生徒に促したい。

（2）全体研究主題との関連

全体研究主題である「共生社会の実現に向けて主体的に関わる生徒の育成」を受け、歴史的分野においては、主として2つの視点で授業づくりを進めている。1つ目は、現代社会の抱える様々な課題に対する解決策を、過去の類似した歴史的事象を学習することを通して見出していこうとするものである。2つ目は、過去の歴史の中で、「共生社会」を実現できた事例を学習することを通じて、共生社会の在り方や実現可能性について追究していこうとしていくものである。

本実践では、古代の文化史について、1つ目の視点を重視して授業づくりを行った。共生社会を構成する一つの要素として、多文化共生社会の実現がある。この多文化共生社会の実現には、自他の文化を尊重することが必要不可欠である。単元観でも述べている通り、古代日本では中国の影響を色濃

く受けながらも、少しずつ日本の風土や習俗に合わせて独自の文化を花開かせていった。こういった日本文化の成り立ちや変化を学ぶことで、日本文化そのものの理解を深めると同時に、文化というものの自体が様々な外的要因と関わりあいながら醸成されていくことを学ぶことができる。この学習経験が、異文化に対する理解や、様々な文化を尊重していく姿勢へと結びつくことを期待している。

また、基調提案で述べている、「社会科で取り扱う共生について分類する表」において、本実践は以下の表1の丸囲み部分を設定した。これは、古代の文化が中国（外国）の影響を受けているという点から、日本の風土に合わせた独自の文化を創造していくという点を踏まえたものである。

	地域社会 ←————→ 国際社会
人間—人間	①—————⑭
自然環境—人間	
科学技術—人間	

表1 本実践で扱う共生の範囲 ※丸囲み数字は共生社会に関する問題（岡本（2024）による）

（3）副題との関連

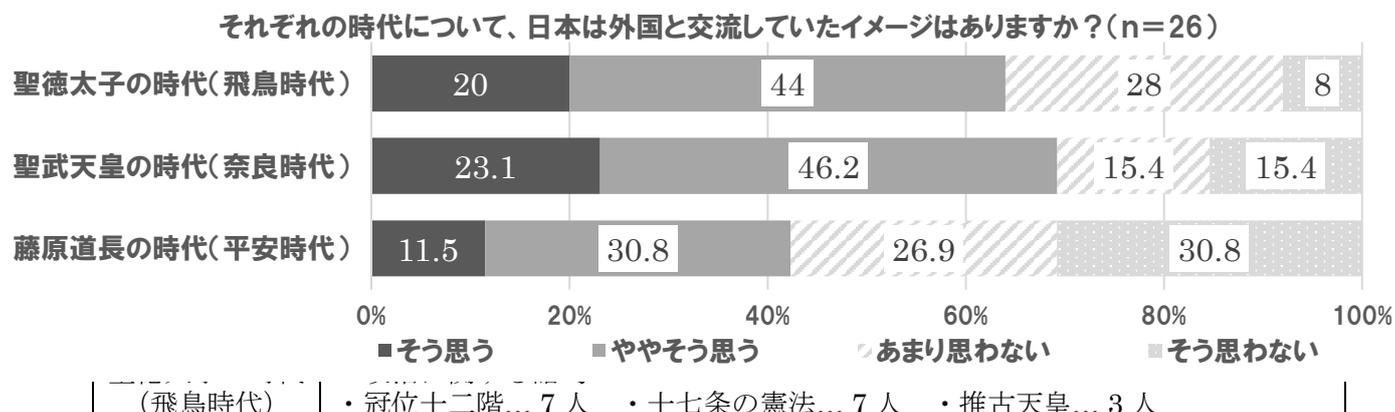
副題として設定した「～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～」と関連して、本実践においても個別最適な学びや教働的な学びを意識した学習場面を設定している。「個別最適な学び」については、中央教育審議会答申(2021)において、「指導の個別化」と「学習の個性化」の2点が示されている。本実践では、このうち「学習の個性化」に焦点を当てる。具体的には、本時において文化財の変化に着目して古代の文化を捉えるが、どの文化財に着目するかは生徒が自身の興味関心に応じて選択・決定する。また、単元の終末にはパフォーマンス課題を設定して古代の文化財について追究するが、どの文化財を選択・決定するかは生徒の判断に委ねている。これらの生徒が自身の興味関心に応じて選択・決定し、追究していく過程こそが個性化された学習形態であると言える。

また、協働的な学習を意識した学習場面として、個人で追究した成果を他者と共有する場面を設定している。生徒は自身の認識と異なる他者の意見や考えに触れ、類似性や相違点に気付くことで、自身の認識を深化させることができると考えている。

本実践においては、古代の文化について、中国からの影響を受けつつも、日本独自の文化を創造していったことを、複数の題材から共通点として見出すことで、古代の文化に対する理解の深化を狙っている。

（4）生徒の実態

1年C組の生徒を対象に事前アンケートを行った。以下はそのアンケート結果の一部抜粋である。（在籍：29人（男：18人 女：11人） 回答：26人）



	・身分... 2人 ・国造り... 1人 ・小野妹子... 3人 ・摂政... 4人 ・10人の話を一度に聞く... 8人 ・遣隋使... 5人 ≪文化に関する語句≫ ・仏教... 3人 ・飛鳥文化... 3人 ・法隆寺... 4人 ・外国と交流... 2人
聖武天皇の時代 (奈良時代)	≪政治に関する語句≫ ・聖武天皇... 3人 ・蘇我氏... 1人 ・遣唐使... 1人 ・平城京... 2人 ・病(災害・ウイルス)... 2人 ・中大兄皇子... 1人 ・壬申の乱... 1人 ・冠位十二階... 1人 ・十七条の憲法... 1人 ≪文化に関する語句≫ ・大仏... 4人 ・日本書紀... 1人 ・仏教... 4人 ・正倉院... 1人 ・国風文化... 1人 ・東大寺... 2人 ・国分寺(国分尼寺)... 2人 ・鑑真... 2人 ・行基... 2人 ※無回答... 7人
藤原道長の時代 (平安時代)	≪政治に関する語句≫ ・桓武天皇... 1人 ・貴族... 3人 ・平安京... 1人 ・摂関政治... 4人 ≪文化に関する語句≫ ・和歌(短歌)... 3人 ・物語... 2人 ・ひらがな(かな文字)... 3人 ・紫式部(源氏物語)... 3人 ・清少納言(枕草子)... 3人 ・十二単... 2人 ・国風文化... 2人 ・寝殿造り... 2人 ※無回答... 5人

藤原道長の時代(平安時代)に関する回答では、「日本が外国と交流していたイメージはありますか?」に対する回答から、日本独自の文化が開花した時代であるという認識が読み取れる一方で、国風文化が単に日本独自の閉じた文化として成立したわけではなく、外国からの影響を強く受けながら形成されてきたという点への意識が希薄である可能性が浮かび上がる。例えば、聖徳太子の時代(飛鳥時代)では、「遣隋使」や「外国と交流」といった、外国との交流を示す語句が一定数挙げられている。また、聖武天皇の時代(奈良時代)においても、「遣唐使」、「鑑真」といった、中国からの文化や技術の導入を示す語句が散見される。飛鳥文化や天平文化が大陸文化の影響を強く受けて成立したことについては、すでに一定程度の認識が確認される。しかし、平安時代、特に国風文化が栄えたとされる時代において、その文化の基層に流れる外国文化の影響について言及した生徒は皆無であった。その傾向は、「平安時代について、日本は外国と交流していたイメージはありますか?」の質問で6割の生徒が否定的な回答を示していることから確認できる。このような生徒の実態を踏まえ、本時では「国風文化が本当に日本独自の文化といえるのか?」という問いを提示することで、生徒にとって新鮮な問題意識から授業を展開できると考える。

3 単元の目標

- ・飛鳥文化、天平文化、国風文化における異文化交流とその影響を理解し、これらの文化がどのように日本の風土や社会に適応したかを理解する。
- ・異文化の受け入れと日本独自の文化形成について、他文化の影響を受けながらも独自性を発展させた過程を考察し、その重要性を自らの言葉で表現する。
- ・古代の文化が形成されていく過程を、異国の影響や多文化共生の視点を持ちながら、自ら積極的に学び、追究しようとする。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
飛鳥文化、天平文化、国風文化における異文化交流とその影響を理解し、これらの文化がどのように日本の風土や社会に適応したかを理解している。	異文化の受け入れと日本独自の文化形成について、他文化の影響を受けながらも独自性を発展させた過程を考察し、その重要性を自らの言葉で表現している。	古代の文化が形成されていく過程を、異国の影響や多文化共生の視点を持ちながら、自ら積極的に学び、追究しようとしている。

5 単元の指導計画（4時間扱い）

（○評定に用いる評価 ●学習改善につなげる評価）

	主な学習活動	知	思	態	評価
前 単 元	<p>《古代国家の歩みと東アジア世界》</p> <p>・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治、天皇や貴族による政治について、東アジア世界との関わりを踏まえ理解する。</p> <p style="text-align: center;">【単元を貫く問い】 ONE PIECE の古代文化史 ～古代文化の特色は？～</p>				
1	<p>◇^{ひと つなぎ}ONE PIECEの古代文化史①</p> <p>・飛鳥文化、天平文化、国風文化について、代表的な文化財を通してそれぞれの文化の特色を理解する。</p>	●			●飛鳥文化、天平文化、国風文化それぞれの文化の特色を理解している。
2 本 時	<p>◇^{ひと つなぎ}ONE PIECEの古代文化史②</p> <p>・天平文化～国風文化の文化財の変化を捉え、国風文化の特色を多角的・多面的に考察し、表現する。</p> <p style="text-align: center;">協働的な学び</p> <p style="text-align: center;">個別最適な学び</p>		○		○国風文化について、日本独自の風土や生活の視点と唐風の貴族文化の視点の両面から、その特質と形成過程を多面的・多角的に考察し、表現している。 ●●国風文化における日本の独自性について、主体的に追究しようとしている。
3	<p>◇マイベスト文化財をプレゼンしよう！①</p> <p>・飛鳥文化、天平文化、国風文化の文化品から、「外国の人に伝えたい古代日本の文化財ベスト3」を選択し、スライドにまとめる。</p> <p style="text-align: center;">個別最適な学び</p>	●			●自ら選択した文化の特色や形成過程をスライドに整理している。 ●●スライド作成を通して、古代の文化や東アジアとの関わりについて主体的に追究しようとしている。
4	<p>◇マイベスト文化財をプレゼンしよう！②</p> <p>・「外国の人に伝えたい古代日本の文化財ベスト3」をスライドにまとめ、発表する。</p> <p style="text-align: center;">協働的な学び</p> <p>・古代の文化および古代国家形成に至るまでの時代的特色を考察し、振り返りシートに表現する。</p>		○		○古代の文化および古代国家形成に至るまでの時代的特色を東アジアとの交流に着目して説明している。 ○スライド作成を通して、古代の文化や東アジアとの関わりについて主体的に追究しようとしている。

6 本時

(1) 本時の目標

○国風文化について、日本独自の風土や生活の視点と唐風の貴族文化の視点の両面から、その特質と形成過程を多面的・多角的に考察し、表現する。【思考力、判断力、表現力等】

●国風文化における日本の独自性について、主体的に追究しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ○評価★ギガタブ使用
導入 7分	<p>◆『樹下美人図』を見て、日本・外国どちらで描かれた作品か考える。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◆活動①【文化分類ゲーム】 A～Hの文化財カードが、それぞれ日本・外国どちらの文化財かを考え、予想する。予想を班員と共有し、ホワイトボードに記入する。</p> <p style="text-align: center;">協働的な学び</p> <p>・国風文化の文化財と中国の文化財の仕分けが難しいことに気付く。 ・本時の学習課題を確認する</p>	<p>★ギガタブの Google スライドで画像等をテレビ & wivia に投影する。</p> <p>【本時の協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の文化財カードの仕分けを班員と行わせる。 ・各班の考えをホワイトボードに表示させ、他班との考えの違いを視覚化する。 ・教師から正解を発表する ・前時の「国風文化＝日本独自の文化」を振り返りつつ、国風文化と中国文化が似ていることに気付かせる。 ・本時の授業プリントを配布する
展開 33分	<p style="text-align: center;">学習課題： 国風文化は「日本独自の文化」といえるか？</p> <p>◆活動②【比べよう！国風文化を問い直す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①絵画・②文字・③建築・④服装・⑤仏像・⑥つぼのいずれかの選択し、各時代（唐→天平文化→国風文化）の変化を読み取る。 ・読み取ったことをもとに、その文化財の「日本独自レベル」を5段階で評価する。 <p style="text-align: center;">個別最適な学び</p>	<p>【本時の個別最適な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考察する資料を生徒自ら選択する。（学習の個性化） ★生徒はギガタブ classroom からそれぞれの文化品を確認できるようにする。 ・机間巡視の中で、行き詰っている生徒へ声をかける。
	<p>【予想される生徒の回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①絵画は、顔はほとんど同じだが、服装と髪型が変化しているため独自レベルは3だ。 ・②文字は、漢字からひらがなに形が大きく変化しているため、独自レベルは5だ。 ・③建築は、すべて建物が赤く、ほとんど変わっていないため、独自レベルは2だ。 	

	<p>◆活動③【決めよう！国風オリジナリティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班員と考察内容を話し合い、資料から気付いたこと、そう考えた理由などを共有する。 ・話し合いを踏まえ、班ごとに、国風文化全体の日本独自レベルを考える。 <p style="text-align: center;">協働的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班としての考えを、代表者がギガタブ sky メニューのポジショニングから入力する。(国風文化オリジナリティのスケーリング) <p>《全体で考える》</p> <p>◆全体での意見共有。各グループで話し合った内容や判断の根拠を発表し、他のグループの意見を聞く。</p>	<p>【本時の協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの考察を踏まえ、班員と国風文化そのものの日本独自レベルを考えさせる。 ・話し合いで気付いたことはプリントにまとめさせる。 <p>★sky メニューのポジショニングに入力させる。探究ラボの wivia を用いて各グループの考えやその進捗を視覚化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや他班の発表を通して、一見、日本独自の文化に見えても、その背景には唐の文化の影響が色濃く残っていることに気付かせる。
<p>終末 10分</p>	<p>◆振り返りシートを記入する (ギガタブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国風文化とはどのような文化か、自分の言葉で説明する。 ・今日の授業で気付いたことや、疑問に思ったことを書く。 	<p>○評価 ★ギガタブ Google form 国風文化の独自性について、各時代の文化財の変遷を考察し、具体的な根拠に基づいて説明するとともに、他者の意見と比較して新たな視点に気づき、自らの考えを深められているか 【思考・判断・表現】 (Google form・授業プリント)</p> <p>●評価 ★ギガタブ Google form 国風文化における日本の独自性について、主体的に追究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 (Google form・授業プリント)</p>

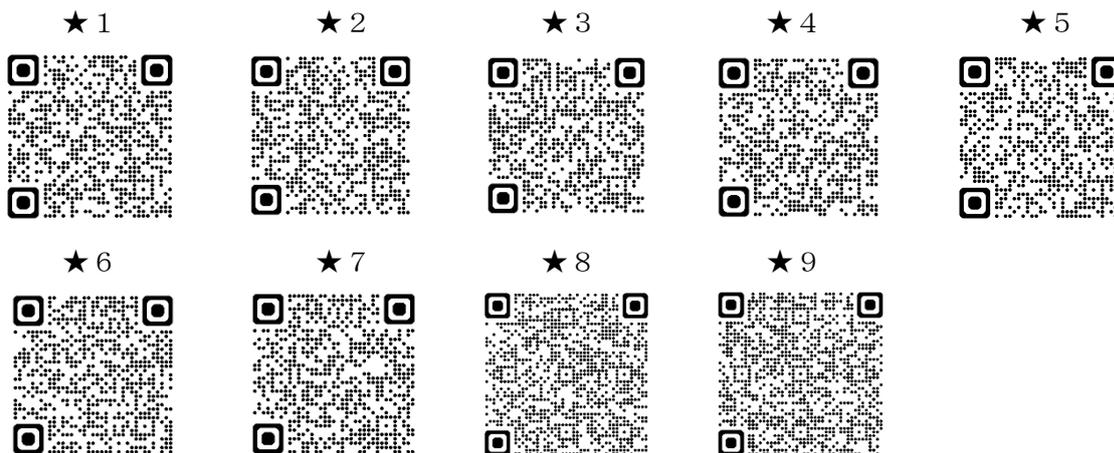
《主な参考文献等》

- ・佐藤崇『生徒一人ひとりの a history を育成する「国風文化」の小单元』2025 (★1)
- ・佐藤全敏『さらに進む「国風文化」の見直し』2024 (★2)
- ・平松隆円『黒髪と美女の日本史』2012
- ・承香院『あたらしい平安文化の教科書』2024
- ・劉永華『中国の服飾史入門』2023

《主な参考 web サイト（授業資料順）》

- ・仏光寺東大殿 (★3)
- ・日本服飾史（十二単の変遷、養老の衣服令による命婦礼服）(★4)
- ・唐代の衣装 (★5)
- ・奉先寺洞（竜門石窟）の大盧舎那仏 (★6)
- ・三彩梅花文壺 (★7)
- ・奈良三彩壺 (★8)
- ・緑釉四足壺 (★9)

《参考資料・web サイトのQRコード》



【事実に認識の第三段階】

日本の古代（飛鳥時代～平安時代）は、東アジアの文化や制度を積極的に取り入れながら律令国家の仕組みが整えられ、天皇や貴族による中央集権国家が形成された時代である。

【事実に認識の第二段階】

古代の日本文化は、中国や朝鮮半島などから伝わった文化を取り入れながら、時代とともに日本独自の特色を発展させていった。

前単元の学習

- 飛鳥時代
 - ・聖徳太子の政治
 - ・大化の改新
 - ・中大兄皇子
 - ・白村江の戦い
 - ・壬申の乱
- 奈良時代
 - ・大宝律令
 - ・平城京
 - ・租調庸
 - ・墾田永年私財法
 - ・聖武天皇
 - ・遣唐使
- 平安時代
 - ・桓武天皇
 - ・平安京
 - ・平安仏教
 - ・摂関政治

【事実に認識の第一・第二段階】

A 古代日本の絵画では、中国の影響を受けながら、日本独自の表現技法が生み出された。

- a 中国（唐）では、トルファンの樹下美人図が描かれた。
- b 奈良時代には、トルファンの樹下美人図の特徴を模した鳥毛立女屏風が描かれた。
- c 枕草子の一場面では、女性は引目鉤鼻の様式で表現された。

B 古代日本では、中国から伝わった漢字をもとに日本で独自に簡略化・変形した文字を用い、和歌や物語文学が盛んになった。

- a 飛鳥時代に、中国から漢字・漢文が伝わった。
- b 奈良時代に作られた万葉集では、漢字の音を借用した万葉仮名が用いられた。
- c 平安時代に作られた古今和歌集では、漢字を日本独自に簡略化・変形したかな文字が用いられた。

C 古代日本の大型建築は、中国の影響を受けながら、日本の浄土信仰や貴族の美意識に基づいて独自の様式を形成した。

- a 中国（唐）では、仏光寺東大殿が建築された。
- b 奈良時代には、中国の建築様式を用いて平城宮跡が建築された。
- c 平安時代に建築された平安京の羅城門や平等院鳳凰堂には、中国の建築様式を模しながらも屋根の一部を加工するなど日本独自の建築様式が用いられた。

D 古代の日本貴族は、中国の服飾文化の影響を受けつつ、日本の気候や美意識に合わせて独自に発展させた服を着用した。

- a 中国（唐）では、るい子と呼ばれる服を着用した。
- b 奈良時代の女性貴族は、命婦令服と呼ばれる服を着用した。
- c 平安時代の女性貴族は、日本の気候や美意識に合わせて作られた、十二単を着用した。

E 古代の日本では、中国の仏教彫刻の影響を受けつつ、日本の浄土信仰や繊細な美意識に基づいて独自に発展した仏像が作られた。

- a 中国（唐）では、高さ17mの大盧舎那仏が建造された。
- b 奈良時代には、大盧舎那仏を模した高さ15mの東大寺の大仏が作られた。
- c 平安時代には、高さ284cmの阿弥陀如来像が作られた。

F 古代の日本では、中国から伝わった陶器技術の影響を受けつつ、日本の生活様式に合わせて独自に発展した陶器が作られた。

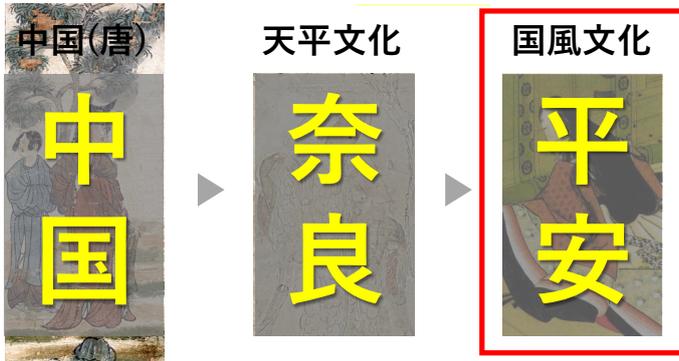
- a 中国（唐）では、三彩梅花文壺が作られた。
- b 奈良時代には、中国の文様を模した奈良三彩壺が作られた。
- c 平安時代には、日本独自の緑色で脚がつけられた緑釉四足壺が作られた。

【事実に認識の第一段階】

- a 飛鳥時代には、中国・朝鮮の影響を受けた日本最初の仏教文化が栄えた。
 - ・仏教の伝来
 - ・法隆寺
 - ・飛鳥大仏
- b 奈良時代には、仏教と唐や西アジアの影響を受けた国際色豊かな文化が栄えた。
 - ・遣唐使
 - ・鎮護国家（国分寺・国分尼寺）
 - ・東大寺大仏
 - ・正倉院宝物
- c 平安時代には、唐風の文化をもとにしつつ、天平文化と比べて日本らしさも見られる独自性の強い文化が栄えた。
 - ・仮名文字
 - ・古今和歌集
 - ・紫式部
 - ・清少納言
 - ・平等院鳳凰堂
 - ・浄土信仰

◆比べよう！～国風文化を問い直す～

国風文化（平安時代の文化）の文化財（①～⑥）の「**日本独自レベル**」を1～5段階で評価しよう！
↓ギガタブのクラスルームにある生徒用スライド参照



「国風文化」の文化財を「他の時代」と比べる
→変化を読み取り、独自レベルを考える。



《授業資料①～⑥（生徒用スライドより）》

① 絵画

中国(唐) トルファン <small>じゅかびじんず</small> の樹下美人図	天平文化 鳥毛立女屏風 <small>とりげりつじょのびょうぶ</small>	国風文化 枕草子 <small>まくらのそうし</small> の一場面
--	--	---

② 文字

中国(唐) 秋二初乃並花送味	天平文化 意伎多曾伎怒也意母奈之尔志豆 万葉集	国風文化 古今和歌集
-----------------------	-----------------------------------	-------------------

③ 建築

中国(唐) 仏光寺東大殿 <small>ぶっこうじとうだい</small> でん	天平文化 平城宮跡 <small>へいじょうきやうおと</small>	国風文化 平安京 <small>らじやうきん</small> の羅城門
---	--	--

④ 服装（貴族）

中国(唐) るいし 褌子	天平文化 みょうぶらいふく 命婦令服	国風文化 じゅうにひとえ からぎぬち 十二単（唐衣裳）
------------------------	------------------------------	---------------------------------------

⑤ 仏像

中国(唐) だいるしやなぶつ 大盧舎那仏 (高さ17m)	天平文化 とうだいじるしやなぶつぞう 東大寺盧舎那仏像 (高さ15m) (奈良の大仏)	国風文化 あみだによらいぞう 平安時代の阿彌陀如来像 (高さ284cm)
---	--	---

⑥ つぼ

中国(唐) さんざいばいこもんこ 三彩梅花文壺	天平文化 ならさんざいつぼ 奈良三彩壺	国風文化 りやくゆうしそくこ 縁袖四足壺
-----------------------------------	-------------------------------	--------------------------------